

走れ思い出

山線軌道

7

私は昭和十四年から二十五年まで山線に勤めていたのですが、私の父(竹次郎氏)も、山線に関係していました。

苦小牧で漁師をしていた父は、大正の終わり頃に現在の第一発電所に移り、職

が、列車は水溜(第一発電所)までしか動いていなかったというので、父はトロッコを馬で引いて第四発電所と水溜の間を歩き来して、水溜にあった王子小学校へ通う第四発電所の子供など、人々や荷物を運搬していた

やってきました。私が学校に通う年頃になると、私の家は滝の上に移っていました。その当時の王子小学校は児童が六、七十人で、先生が三人だったと思います。

冬はスキーをはいて学校

事をしていたのですが、登校途中「干」の印の入ったザックを背負ったその祖父とすれ違ふのです。そこからは祖父の足跡がついてるのでラッセルも染で、お互いにホッと、祖父はヒゲが凍りついた顔をこっち

第一発電所  
千歳川のナ  
ツソワの滝の発見を契機  
に、王子製紙苦小牧工場  
建設の第一歩として明治  
四十年五月、千歳川水路  
工事が着手された。水路  
は三千六百円で当時日本  
最長。発電所建設では「タ  
コ部屋」による強制労働  
が行われた。建設費には  
八百万円程度を要すると  
され、同四十三年十一月、  
二千五百馬力発電機四台を  
備えた水力発電所が竣工  
した。

列車は水溜が終着



版画・能登正智さん(苦小牧市糸井389の9)一水溜一

第四発電所までは  
馬車トロッコで

をかえました。私がもの心つかぬころです。父は「馬トロッコ」を動かしていたのだと言っていました。

山線の線路は第四発電所まで通ってはいたのです

といます。冬は第四発電所の子供たちは学校の近くの合宿所に入るのですが、正月や土曜日などには父の引く馬ソリで家へ帰り、また合宿所へ

へ通いました。三十分ほどで着くのですが新雪の後はラッセルが大変でした。私の祖父(工藤政次郎氏)が祖母と一緒に第二発電所に

へ向けて「元気で行け」と声をかけてくれるのです。その凍りついたヒゲを奇妙によく覚えています。その頃祖父は、もう七十歳近くになっていたはずですが、苦小牧市小糸井町一ノ七八木 政雄さん六〇談

